



緊張と情熱と節目の新人発表会

日時：平成21年4月5日（日）
場所：発表会 都市センターホテル



熱田 瓦（千葉県）

日本インプラント臨床研究会は1974年に立ち上がり、今年で35周年という記念すべき節目を迎えました。

余談ではありますが、自分は、1974年に生まれ、今年で35歳となります。

そのような歴史ある会の一般会員になるためには、まず新人発表を行ってもらおう…昨年長いようで短かった100時間講習が修了した喜びも束の間、新たなミッションが与えられました。

いままで、大学院時代に学会発表をした以外は、特にスタディグループに所属したこともない自分にとって、多くの先生方に症例を見ていただく経験は無に等しく、不安と緊張の面持ちで当日を迎えました。

さらに、余談ではありますが、世間も某国から人工衛星が飛び立つとの情報に、不安と緊張が走った日でもありました。

会場には、予想以上に、多くの先生方がお見えに



なっていました。

新人発表と名は打たれていますが、マルチメディア機器が用意され、座長が進行して質疑応答がされる様子は、学会発表のような雰囲気にも包まれており、





さらに緊張感が高まりました。

井汲会長のお話の後、発表が始まりました。

新人発表は8分の発表の後、5分間の質疑応答という時間配分でした。

参加されている先生方は、皆、真剣に聞きいっておられて、症例についての質問やアドバイスが活発にされており、形式だけの発表会ではないと感じられました。

また、質問の仕方や内容への着眼点など、経験浅い自分にとって非常に勉強になりました。

印象的なアドバイスとして、ビスホスフォネート

による骨壊死は服用でも起こるので問診に注意すること、言葉の使用としてインプラントをうつつという言い方は絶対にしないよう注意すること、前医批判は慎むべきであり、一生懸命治療されてあることを説明することなどがありました。

他にも、写真、X線など基礎資料、治療期間（抜歯後および免荷期間）、補綴物の材質や方法、ショートインプラントの予後など、多くのアドバイスがあり、大変、勉強になりました。

特別講演会は、中野喜右人先生の「咬合再構成における診査診断～頭部X線規格写真の活用」でした。

3月1日に行われた定例研修会での発表も拝見しましたが、今回はさらに深い内容の講演でした。

恥ずかしながら、自分は、矯正治療は矯正医任せであり、セファロ分析は国家試験合格した瞬間に忘れてしまっていました。

しかし、咬合再構築をするうえでの資料採得のひとつとして頭部X線を有効活用できれば、より治療の質を上げることが可能ではないかと感じました。

今回は総勢25名が発表を行いました。初めてから講演会を開いているような先生まで、そして内容も治療計画から移植、GBRおよびフルマウスケー



スまでバラエティに富んだ内容の濃い新人発表会だったと思います。

新人発表終了後、懇親会が開かれました。

朝からの緊張感が解き放たれ、お酒も入り、非常に盛り上がった楽しい会でした。

発表しているときは、13分間が異様に長く感じられましたが、懇親会はあっという間に3時間ほど過ぎていました。

その時間でも足りないくらいでしたが、いろいろな先生方からお話を伺うことができました。

中でも、井汲会長から、学会の専門医(認証医)に必要な症例だけではなく、普段から資料を集めて症例発表をすることで治療技術の向上にもつながり、また患者さんからの信頼を得ることができるというお話を聞きました。

会長をはじめ、当会の先生方は、情熱をもって治療に臨まれていることを感じました。

自分は、技術的に足りないことが多いですが、その姿勢をお手本に、日々精進したいと思いました。

日本臨床インプラント研究会は、知識獲得、技術向上に加え、症例発表にも意識的に取り組み、発表



会に参加される先生の割合も非常に高いとのことでした。また、懇親会への参加の割合も非常に高い会でありました。

このような素晴らしい会に入会させていただいたことを誇りに思い、今日一日学んだことを明日への診療に活かしていきたいと強く感じました。

今後ともご指導ご鞭撻の程、よろしくお願い申し上げます。

最後に、新人発表会を運営された諸先生方に深く御礼申し上げますと共に、このような報告の機会を与えていただいたことに感謝いたします。

